

南丹市・京丹波町

介護保険事業所 紹介冊子



南丹市・京丹波町の介護保険事業所の 紹介冊子発刊にあたって

現在の日本では急速な少子高齢化が進んでおり、南丹地域においても例外ではありません。南丹市の2015年の総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は33.5%、京丹波町は39.9%でともに3割を超えており、全国平均（26.6%）よりもそれぞれ6.8、13.3ポイントも高くなっています。今後、高齢化率は2045年までに南丹市は46.4%、京丹波町は56.3%に達し、およそ10人に5～6人が高齢者になると見込まれています。このような状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。このため、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築が重要であるとされています。

地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されることが期待されており、疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるためには、地域における医療・介護・福祉の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが必要です。

南丹地域の医療・保健・福祉の関係者同士の顔の見える関係づくりを目的に、定期的に「なんたん在宅医療連携研究会」を開催し、昨年度は「私たちの仕事現場を見直してみませんか」をテーマに意見交換を行いました。この時の議論を踏まえて、このたび各事業所にその得意とする特徴的な取り組みや考え方を自由に書いて頂き、関係者やご利用者の方々の選択の参考になるような冊子を作成することにいたしました。この冊子が少しでも皆様のお役に立ち、南丹地域の地域包括ケアシステムを構築する一助になれば幸いです。

令和3年3月22日

船井医師会 会長 仁丹 利行